

# かわらばん

ホームページ



令和3年1月

第254号

## あたらしい心不全のくすりは醜いアヒルの子？

循環器内科 主任部長 江角 章

SGLT2 (エス・ジー・エル・ティー・ツー) 阻害剤をご存じですか。日本では2014年から使われるようになった、あたらしい糖尿病の薬です。血液中のブドウ糖は腎臓の糸球体から尿の元となる原尿に出た後、尿管で取り込まれて血液中に回収されます。このとき働くのが SGLT2 と呼ばれる運び屋のタンパク質です。SGLT2 阻害剤はこの運び屋の働きを抑えてブドウ糖を排泄させる働きがあります。この結果、血糖が下がり糖尿病をコントロールするのです。このとき、水分も一緒に排出され尿量が増えます。いわば、ドンドン尿中に糖を出して血糖値を下げる逆転の発想です。その排泄されるブドウ糖の量は一日に 50-60g にも及びます。しかし、当初は糖尿病専門医から必要な物を捨てるのは、栄養状態を悪くし糖尿病治療の原則から外れるとか、腎臓病専門医からは過剰な尿糖が腎臓自体を傷害する可能性や、感染を引き起こすなどと、評判は良くありませんでした。循環器内科医からも脱水症を引き起こすことなどが心配していました。ところが、多くの人で試してみると、糖尿病が良くなるだけでなく、糖尿病に合併しやすい心不全や腎臓障害にも良い働きがあることが分かってきました。そのため、心不全を合併した糖尿病には積極的に勧められるようになったのです。それどころか、糖尿病かどうかにかかわらず心不全に対して良い働きがあることが分かってきました。具体的には心臓の動きが悪くなった慢性心不全に対して糖尿病でなくとも心不全の標準治療に上乘せする形で使用できるようになる見込みです。米国や欧州でも最近、使用できるようになりました。日本でもこの11月中旬に厚生労働省で承認される見込みです。期待されていなかった糖尿病の薬が新しい心不全の薬として使われるようになるのです。いわば、人気の無かった醜いアヒルの子が、ついに白鳥になったようなものです。心不全治療薬で予後を改善する新しい薬が出てきたことは、朗報です。ただし、泌尿婦人科系の感染症や、脱水症に注意が必要なことも有り慎重に使われるべき薬です。糖尿病や循環器の医師と良く相談してみてください。



## 新型コロナウイルスと肥満

栄養管理室 主任 西川 知可子

新型コロナウイルスの終息どころか感染者の増加している状況にもどかしく思われている方も多いのではないのでしょうか。

この新型コロナウイルス感染症では高齢者や基礎疾患（心血管疾患、糖尿病、COPDなどの慢性呼吸器疾患など）のある方は重症化しやすいと言われています。厚生労働省の発表では、肥満（BMI30以上）も重症化のリスク

因子であると示されています。

厚生労働省実施の国民栄養・健康調査（令和元年）の報告に

『肥満者（BMI $\geq$ 25kg/m<sup>2</sup>）の割合は男性33.0%、女性22.3%であり、この10年間でみると、女性では有意な増減はみられないが、男性では平成25年から令和元年の間に有意に増加している』とあります。



この肥満者における『食習慣改善の意思』については「改善することに関心がない」と回答した人は男性14.3%、女性は8.0%でした。つまり男性は肥満者増加、食習慣の改善においても女性より関心のない方が多いという結果となっています。肥満男性の方々、要注意です。

感染は他人事と思ってしまうがちですが、万が一感染した場合に重症化しないためにもBMI30以上の方、この機会にダイエットをしてみませんか？ただし間違った方法でダイエットをすると脂肪だけでなく、肝心の筋肉や体力、免疫力を落してしまう可能性もあります。健康的に減量するために私達管理栄養士がサポートをさせていただきます。希望される方は主治医にご相談ください。

※ BMIの求め方 :  $BMI = \text{体重 (kg)} \div [\text{身長 (m)}]^2$

※ 普通体重のBMI :  $18.5 \leq \sim < 25$



## 体に水ぶくれができる病気～水疱性類天疱瘡～

皮膚科 医長 広瀬 晴奈

[どんな病気ですか？]

お年寄りに多い病気で、免疫に不具合が起き、体全体に、大きな水ぶくれがたくさんできます。かゆみや、周囲に蕁麻疹のような赤みを伴うことが多いです。

[水ぶくれが起きる原因は？]

免疫が不具合を起こす原因は多くは不明ですが、糖尿病の治療薬（DPP4阻害薬という種類の薬）が原因になることがあります。

表面の表皮とその直下の真皮をくっつけている「のり」★1を敵だと認識してしまった免疫★2が、「のり」を攻撃して剥がしてしまうため、表皮と真皮が剥がれて水ぶくれができます。

[治療]

ステロイドの飲み薬が最も一般的です。そのほかの免疫抑制剤を一緒に飲むこともあります。ステロイドの飲み薬は、長期間多くの量を継続すると副作用があるため、副作用のリスクが高いと判断した患者さんに対して、当院では血漿交換や大量免疫グロブリン療法を併用しています。

血漿交換は、血液透析と似た方法で、不具合を起こした免疫を濾過して捨ててしまう治療法です。

大量免疫グロブリン療法は、輸血と似た方法で、元気な他の人の正常な免疫を体に入れる治療法です。

これらの治療を組み合わせることで、ステロイドの飲み薬の量を早期に減らして、副作用を最小限に抑えることができます。

★1 生体の「のり」：表皮と真皮を接着する部分を、ヘミデスモソームといいます。

★2 血液中に抗BP180抗体という自己抗体ができ、それがヘミデスモソーム構成成分を攻撃して表皮と真皮がはがれ、表皮下に水疱ができます。

